業務調整専門家の眼

コロナ禍での業務調整専門家業務

インドネシア　ビジネス環境改善のための
知的財産権保護・法的整合性向上プロジェクト
ＪＩＣＡ業務調整専門家
間　澤　友紀子

１．はじめに

「業務調整専門家の眼」の執筆依頼を頂いた事に心から感謝すると同時に，何を書こうかと悩みました。６月にはご依頼頂いていたのですが，執筆に取り掛かり始めたのは７月２０日，インドネシアでは犠牲祭で祝日です。犠牲祭についてご興味がある方は，検索してみて下さい。私自身も改めて検索してみたところ，「閲覧注意！」とヒットした事に驚きました。確かに牛を解体している映像は気持ちよいものではありませんが，食肉は私たちの生活に欠かせないものです。「インドネシアの子供たちは犠牲祭を通じて食肉に対する感謝の心を学ぶ」と協力隊時代に同僚の先生から習いました。私が協力隊に参加した当時は，協力隊訓練の一環で野外研修がありました。野外研修の夕飯は，グループで一羽の鶏を絞めます。鶏の首をナイフで切り，熱湯に浸し，羽を毟り取ります。開発途上国で生きていく術を体験する事が目的であったのですが，私はこの体験のおかげで，初めての犠牲祭を無事にスルーすることができました。配属先のモスクの床で肉を切る作業を見て，「日本だったらまず食品衛生法にひっかかるな」と感じました。

簡単に自己紹介をさせて頂きますと，インドネシア青年海外協力隊「観光業隊員」（旅行ばかりしていた隊員に思われがちですが，職種名です）として活動していました。ボロブドゥール遺跡で有名なジョグジャカルタをバリ島に次ぐ国際的な観光地として日本人観光客誘致を目指していたのですが，日本人の観光客は日本からバリ島へのツアーへ参加し，オプショナルツアーを利用し，日帰りでバリ島からボロブドゥール遺跡とプランバナン遺跡を観光するだけです。ジョグジャカルタのホテルに滞在し，ジャワ文化に触れることはありません。ジョグジャカルタの観光人材育成の為に派遣されたのですが，バリを訪れる日本人の平均滞在日数が３．５日という事で，「日本人の休みが少なすぎる」と結論に至りました。コロナが収束しましたら，ＩＣＤの皆様には是非インドネシアに来て頂き，ジャワ情緒溢れるジョグジャカルタまで足を延ばして下さい。隊員時代のレアな体験，ジョグジャカルタの観光ＰＲは書き出すと止まらなくなるのでこのくらいにしておきます。ＪＩＣＡインドネシア事務所で「ボランティア調整員」として勤務し，インドネシア運輸省にて「航空安全能力向上プロジェクト」，保健省にて「看護能力向上プロジェクト」と現在のプロジェクトを含めて３つの技協の調整員として働いております。インドネシア生活は通算１０年以上となり，「物凄くインドネシア

が好きなのか」「イスラム教に興味を持っているのか」と聞かれますが，お酒と豚肉がない人生なんて想像できません。ハッピーソーダ（炭酸水とイチゴシロップ）や，甘～いコーヒーまたは紅茶でハイテンションになっている，おじさん達を観ると微笑ましく感じる事もあります。

２．コロナ禍での業務

２０２０年４月に緊急一時退避となり，２０２１年４月に再赴任。まさかの１年間，日本での在宅勤務となりました。会議はズームを利用して行うようになり，この１年間でズームも使いこなせるようになりました。一番苦労したのは２０２１年４月に開催した法規総局のＦＧＤでした。何とかズームでの同時通訳機能の設定を習得したので，自らホストを引き受けたものの，総勢２５０名のオンラインセミナーを一人でズーム操作をするのは非常に心細かったです。ネット回線に何かあったら困るので当日はホテルに滞在しました。インドネシア側も共同ホストをお願いしましたが，それがネックとなる事もありました。地方からの参加者はズームに慣れていない事もあり，発言者以外がミュートにしていない方も多く，「お母さんお腹減った」等の生活音が聞こえてきます。日頃のカウンターパートの会議レベルでしたら，「懐かしいな」とほっこりした気持ちになるのですが，これだけ大きなセミナーになると，騒音を発する参加者はホストの権限を利用してミュートにしていきます。これは正にゲーム感覚でした。しかし，インドネシア側の共同ホストが全員ミュートにしてしまい，通訳さんが話そうとした時にミュート解除を求めなければならないという状況になってしまいました。「通訳さんも共同ホストにすれば，自らミュート解除ができる」と気付き，直ぐに設定を変えましたが，出だしはミュート操作に必至でお手洗いも行かれない状態でした。日本側は同時通訳機能を利用しても，インドネシア側は使いこなしていなかったので，通訳さんには同時通訳用と，逐次通訳用の二つのディバイスから繋いでもらい解決できました。通訳さんのご経験から予測していた問題でしたので，事前に想定でき，通訳さんに心より感謝です。ズーム操作にも慣れましたが，一人実施部隊は孤独との闘いでもあります。配属先も実施部隊は会議室等に集合していますので，オンラインを利用しても大きなイベントを実施するのは難しいのが現状です。

３．念願のカウンターパート（以下ＣＰ）との再会

１年以上離れていたＣＰとの再会は握手やハグはできませんでしたが感動的でした。月に１～２回はオンライン会議で顔は合わせていたものの，やはり実際に顔を合わせて会議が行えるのは素晴らしい事です。インドネシアでは食べ物がとても重要なので，食事やおやつを食べながら会議を行います。日本では発表者が発言している間に食べ物を口にするなんて失礼だと思いますが，インドネシアでは普通です。午前中で会議が終了しても招集した側がお昼を提供するという慣習があります。再赴任した頃は，断食月でしたので，食事を伴う会議は行いませんでした。通常は断食中の会議でも，断食明けに

食べるものを提供しなければなりません。お砂糖や油を会議参加者に配る省庁もありました。断食明け大祭の後，インドネシアでもデルタ株が蔓延してきて，再び自宅勤務となってしまいました。現行プロジェクトでは，最高裁内にプロジェクトオフィスをご提供頂けなかったので，オフィスを借りておりましたが，新規案件から最高裁にプロジェクトオフィスをご用意して頂きました。最高裁オフィスへの引越しが完了したら，インドネシア式のお披露目会も計画していたのですが実施できない状態です。

４．最後に

現在，インドネシアでは４０，０００人程の新型コロナウィルスの新規感染者が出ております。ＪＩＣＡインドネシア事務所から「コロナウィルスの拡大に伴う一時帰国の勧奨」を受けまして，自らの安全を考えねばならないのですが，前回と同様に退避指示であれば，仕方ないのですが，「一時帰国の勧奨」では帰国するかどうかの判断は自分の意思です。プロジェクトオフィスの引越しも完全に終了していませんし，業務調整員の仕事は経理業務が大半を占めています。ネットバンキングが許可されていないので，銀行へ行くことが多く，自分の不在の間は事務所の秘書さんに迷惑をかけてしまうので，非常に心苦しいです。この記事が発行される頃，自分はインドネシアに残っているのか，日本に退避しているのかわかりませんが，とにかくコロナが収束する事を祈るばかりです。普通に出勤し，ＣＰたちと食事しながら会議をするなど，日常的に行っていた事が「なんて素晴らしい日々であったのだろう」と思う日が来るなんて夢にも思いませんでした。

最高裁オフィスにて

秘書のプリタさんとジュリさんと現在のプロジェクトオフィスにて

プリタさんはイスラム教，ジュリさんはキリスト教。プリタさんは「物腰が柔らかい」と言われているジャワ人で，ジュリさんは「物事をはっきり言う」と言われているバタック人。二人の個性を生かしてプロジェクトをマネージしていきたいのですが，人間の遠隔操作は時には困難です。対面で指示出しすれば簡単に済む事が，何故かややこしい事になったりする事も（涙）オンライン会議システム等，技術の進歩に感謝しつつも，人間同士のふれあいの素晴らしさを再認識する日々です。